

『子や孫に読み聞かせたい論語』

著者：安岡 定子

巻頭言

『論語』は、不思議な魅力に満ちた書物です。哀しい時には、その痛みを和らげてくれ、落ち込んだ時には、大丈夫だと励ましてくれ、迷った時には、心落ち着かせてくれる。失敗した時には、ここからが肝心！ さあ、頑張ろう、と元気づけてくれる。気がつけば、いつも身近にあり、寄り添っていてくれる。私にとってはそんな存在です。

『論語』の言葉は、心の奥にそっと眠っていて、いざという時に、すうっと現れて、支えてくれるように思います。その時々で違う言葉が姿を現します。たとえ同じ言葉であっても、その時の自分の心情や状況によって、受け止め方が変わります。そして歳を重ねることも、またその表情を変えます。若い頃には理解できなかった言葉や、魅力を感じなかった言葉に心惹かれたり。二千五百年という時を経てなお、輝きを失わない言葉の数々。これが古典の力なのでしょうか。先哲に感謝したいと思います。

《引用文献》

安岡定子 『子や孫に読み聞かせたい論語』 幻冬舎、2011年、冒頭部分より